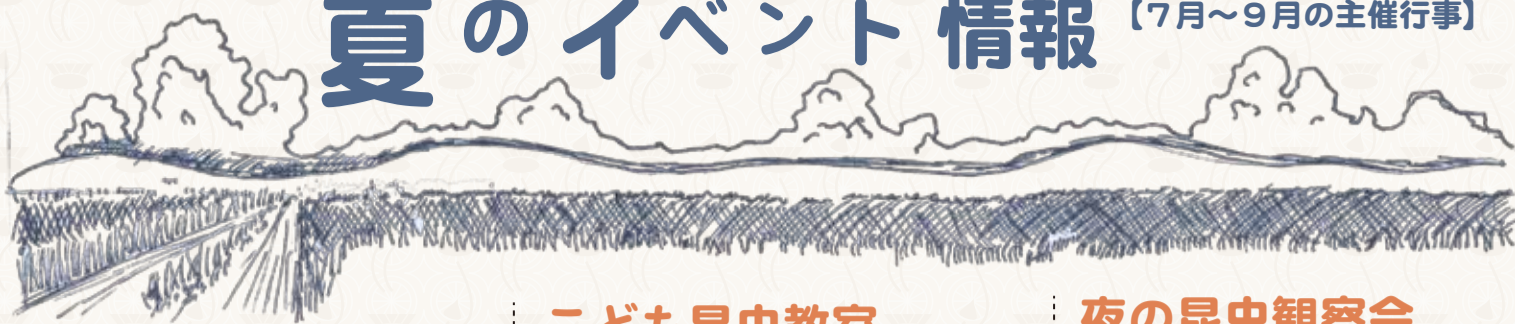


夏のイベント情報 [7月～9月の主催行事]



牛久自然観察の森
季刊情報誌



森のしんぶん

夏号 No263

幼 夏の幼児昆虫教室

7/12日 18日 25日 26日
8/1日 2日

夏の昆虫たちを探そう！原っぱと雑木林を探検します。(幼児向けの楽しい内容です)

対象：幼児(3歳～6歳の未就学児)とその保護者
開催時間：午前9時～10時
参加費：幼児(3歳～6歳の未就学児)1名につき500円、保護者は無料。
定員：10組(又は25名)
申し込み：電話にて事前申し込み
持ち物：虫取り網/虫かご
(お持ちの場合はご持参ください。貸出有り)
服装：日よけ帽子、薄手の長袖長ズボン、動きやすい靴でご参加ください。
備考：悪天候時は中止、中止の場合は午前8時30分までに決定しお電話いたします。

こども昆虫教室

7/11日 8/8日 9/12日

里山に生息する昆虫達に出会うネイチャーガイドツアー。自然解説員が昆虫達の生態を紹介します。

対象：小学生とその保護者
開催時間：午前9時～10時
参加費：500円(1家族)
集合場所：ネイチャーセンター前
定員：5家族
申し込み：電話にて事前申し込み
開催月の1日午前9時から受付開始
持ち物：虫取り網、虫かご
服装：日よけ帽子、薄手の長袖長ズボン、汚れても良い服。
備考：小雨決行



夜の昆虫観察会

8/1日

普段は入れない特別な夜の森で、樹液に集まる昆虫や光に集まる昆虫達の生態観察をおこないます。

対象：小学生とその保護者
開催時間：午後7時～9時
参加費：1人300円 ※幼児以下は無料
定員：50名
集合場所：ネイチャーセンター前
申し込み：電話にて事前申し込み
7月17日(金)午前9時から受付開始
服装：日よけ帽子、薄手の長袖長ズボン、汚れても良い服。
備考：小雨決行



幼 動物のすみか探し

8/12水/13木/14金

ノウサギやモグラ、アカネズミなど森に棲むどうぶつすみかを探しましょう



対象：幼児(3歳～6歳の未就学児)とその保護者
開催時間：午前9時～10時
参加費：幼児(3歳～6歳の未就学児)1名につき500円、保護者は無料。
定員：10組(又は25名) 集合場所：ネイチャーセンター
服装：日よけ帽子、薄手の長袖長ズボン、動きやすい靴でご参加ください。
備考：悪天候時は中止、中止の場合は午前8時30分までに決定しお電話いたします。
申し込み：電話にて事前申し込み、又はネイチャーセンターカウンターでも受付可

『夏の星空観察会』参加者募集 8/22日

夏の星座や星団・星雲の他、土星、二重星、夏の大三角などを本格的な天体望遠鏡を使って楽しく観察。長年、星空案内をつとめているボランティア『こども星見隊』がご案内します。

対象：小学4年～6年生とその保護者ペア 参加費：無料
開催時間：午後7時～9時 定員：20組40名
集合場所：ネイチャーセンター
申し込み：電話にて事前申し込み。8月1日(土)午前9時から受付開始。
雨天時：ネイチャーセンターでスライドや星空クイズなどをおこないます。

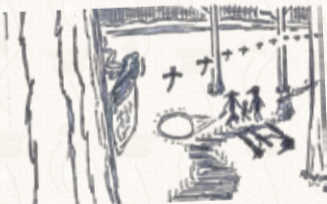
幼 夕涼み観察会

閉園後の森で虫達の大合唱を聴く会

ヒグラシ蝉しぐれの巻

8/9日 15日 16日

対象：幼児(3歳以上)～大人の方
(幼児は抱っこ又はベビーカーで参加可)
開催時間：各日午後4時30分～5時30分
参加費：1名につき300円(乳児は無料)
定員：25名
集合場所：第一駐車場集合
申し込み：電話にて事前申し込み(先着順)



コオロギ・クツムシ大合唱の巻

8/23日 29日 30日

対象：幼児(3歳以上)～大人の方
(幼児は抱っこ又はベビーカーで参加可)
開催時間：各日午後4時30分～5時30分
参加費：1名につき300円(乳児は無料)
定員：25名
集合場所：第一駐車場集合
申し込み：電話にて事前申し込み(先着順)



はじめての親子バードウォッチング 9/23日水祝

双眼鏡の使い方や野鳥の探し方、生態を親子で一緒に観察します。双眼鏡や望遠鏡は施設で用意するので、特別な道具をそろえなくても気軽に参加できます。

対象：小学生とその保護者 開催時間：午前9時～10時30分
参加費：1家族500円 定員：5家族
申込：事前要予約、電話にて事前申し込み
備考：雨天時、強風時中止



定例バードウォッチング 7/19日 8/16日 9/20日

「森」や「田畑」など里山を巡るバードウォッチング。毎月20種類以上の野鳥を観察しています。

対象：一般 定員：なし
参加費：無料
開催時間：午前8時～10時
(※9月は午前9時～11時)
集合場所：ネイチャーセンター前
申し込み：当日受付
備考：双眼鏡の無料貸出有
雨天時、強風時中止。中止の際は当日の1時間前にHPにて掲載いたします。
協力：牛久自然観察の森野鳥ボランティア(牛久とりの会)



幼 しぜんっこくらぶ秋組募集

しぜんっこくらぶは2歳以上の幼児とその親のための自然体験講座です。雑木林や原っぱで季節の生き物を観察しながら歩き、クラフト作りや記念に残る「ノート作り」、絵本の読み聞かせなどを行います。



9/17木 「バッタと追いかっこ」
10/15木 「どんぐりみつけた！」
11/19木 「実りの秋を楽しもう」

対象：2歳以上の幼児とその親
開催時間：午前10時～11時45分
定員：3組
参加費：1組3000円

申し込み：9月1日(火)から電話またはネイチャーセンターで受付。
備考：原則3回参加出来る方、荒天候時中止の場合、振替有り。
欠席された場合、参加費の返却はできません。ご了承ください。

園長の里山ガイドツアー

植物達の進化の不思議やユニークな生態を野外観察する「植物好き・大人向け」の里山ガイドツアーです。



7/12日 8/9日 9/13日
時間：午後1時～3時
参加費：無料
申し込み：当日受付
集合場所：ネイチャーセンター前
備考：小雨決行。強風または荒天時は中止となります。

特別展『鳴く虫』 8/22日～8/30日

スズムシやマツムシなど日本の「鳴く虫」約30種を生態展示。秋の音色が響く中、鳴く虫達の生態を知ることができます。

会場：ネイチャーセンターレクチャー室
開催時間：午前9時～午後4時45分(最終日は午後3時まで)
入場：無料
備考：開催期間中、スズムシを5匹1セットにして無料配布いたします。
24日(月)は休園日です。
共催：日本鳴く虫保存会茨城支部

申し込み & お問い合わせ

029-874-6600

休園日：7月：6日(月)、13日(月)、21日(火)、22日(水)、27日(月)
8月：3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)
9月：7日(月)、14日(月)、24日(木)、25日(金)、28日(月)

「牛久自然観察の森公式HP」
<http://www.city.ushiku.lg.jp/page/dir000055.html>



その他のイベント・詳細は
二次元バーコードを
ご利用下さい。



カッパの碑に見守られる牛久市観光アヤメ園。ハナショウブやかキツバタ以外にもオニバスやヒシなど希少な水生植物がみられる。駐車場・公衆トイレ・展望台が併設され散策しやすいので足をのばしてでも立ち寄りた。



水路でみつけたドジョウ。圃場では農薬を使用していないため、メダカやドジョウをはじめ水辺のいきもの達とたくさん出会う。畦でも、トウキョウダルマガエルやイナゴ、オンブバッタが数多く見られる。



夏の日差しを浴び、葉を大きく広げるオニバス。牛久観光アヤメ園では、アメリカザリガニの食害からオニバスを守るため、波板の内側で保全が行われている。ほんの一昔前までは牛久沼には数多くのオニバスの葉が、湖面を覆っていたそうだ。



三日月橋から広がる牛久沼。空、そして湖面が一体となり、地平線に青く溶け込んで行く。水面から流れてくる風は、頬に優しい。



牛久沼の左岸にそびえる斜面林。シラカシやスタジイなどの照葉樹林を主体に構成されている。降り注ぐ太陽、青々とした稲、葉の照りが潤いを感じさせてくれる。



牛久沼左岸 / 夏の水辺に行く

牛久どらいぶ

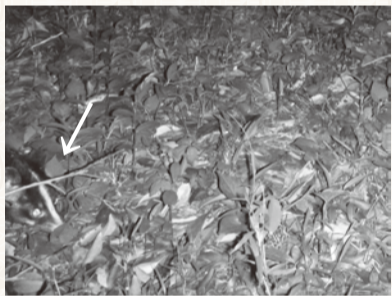
水と緑の町「牛久」の里山を再探訪
自然解説員の視点で自然を切り取ります。



アライグマ / アライグマ科

体毛は灰白色で目の周囲にはっきりとした黒いマスク模様があること、尾に白と黒のしましま模様が入るのが特徴です。アライグマもハクビシンと同様に木に登るのが得意です。

(撮影：牛久自然観察観察の森 2014.5.25 23:58)



ハクビシン / ジャコウネコ科

体毛は灰褐色で、額から鼻にかけて白線が入るのが大きな特徴です。食性の幅は広く、ブドウなどの果樹や畑作物を食べることもあります。大きく分類するとネコの仲間でも登りが大の得意。屋根裏で動物の足音が聞こえた時は、ハクビシンかもしれません。

(撮影：牛久自然観察観察の森 2014.5.5 0:14)



タヌキ / イヌ科

体毛は全身に白い毛が混ざった灰黒色で、体はずんぐり足が短く見えるのが特徴です。目の周りには黒毛のパンダ模様があります。木登りなど高いところに登ることはあまり得意ではありません。

(撮影：牛久自然観察観察の森 2014.5.16 20:56)

観察の森に生息する哺乳類達① タヌキ

牛久自然観察の森では、センサーカメラを用いて森に生息する哺乳類調査を定期的に行っています。カメラには、ウサギに次いでタヌキがよく写ります。タヌキは昔から私たち人間の近くに生息し、身近な存在として昔話にもよく登場します。しかしながら彼らは夜行性で日中はほとんど活動しないため、動いているタヌキを目撃することは意外とありません。名前は有名ですが、あまり知られていないタヌキ。今回は、その特徴や生態を簡単に紹介したいと思います。

特徴

タヌキの外見は、ハクビシン、アライグマとよく似ています。牛久市周辺では3種とも生息していて混同しやすいので、それぞれの特徴を簡単に紹介いたします。

タヌキの生態と人間社会との接点

生活場所は住宅地から山地まで。雑食性で鳥類・ノネズミなどの小動物や、昆虫・木の实などを食べますが、主に昆虫を食べています。また自然の食外物以外にも、ヒトが出した生ごみやドッグフードなどなんでも食べます。また地面に落ちていたビニール袋やテニスボールを誤って食べることがあり、消化できないものを食べてしまうと嘔吐・下痢を起して最悪の場合死んでしまいます。ヒトが何気なく捨てたり野外に置いていた人工物がタヌキに危害を加えてしまう場合があるので注意が必要です。

春に産まれたタヌキは、秋に独り立ちをします。独り立ちをした若いタヌキがエサを求め行動範囲を広げます。この時、道路を渡ろうとして交通事故にあっってしまうこともしばしば。横断中、走ってきた車のライトに驚くと、その場に立ちすくみ、動く事ができなくなるという習性も事故が後をたたない原因にもなっています。

「ためぎ寝入り」とは、昔、漁師が銃でタヌキを狙ったところ弾が当たってもいないのに鉄砲の音に気絶し、持ち帰ったという、タヌキの臆病な性格から来ているそうです。その他、林の中で調査をしていると、地面の上にたくさん糞が積もっているのを見ることがあります。これは「タメ糞」といい、タヌキ特有の習性です。何頭ものタヌキが同じ場所に糞をして、情報交換をしているといわれています。タヌキが生息している場所には必ずあるので、見つけた際はどんな物を食べているか調査してみるとタヌキの生態をより知ることができるといいます。

終わりに

タヌキは昔からヒトの生活に近い場所に住み、人の暮らしと関わりを持ってきた里山の代表的な動物です。これからも身近な動物として、共存できるような関係を心がけていきたいものです。

(モニタリング1000中大型哺乳類調査担当スタッフ)